

■児童・生徒の学力の状況

○「R8全国学力・学習状況調査」の結果から、多様性を認める温かい学級風土のもとで、自分の考えを工夫して表現・発表する意欲と主体的な学習意識が高いことが強みである。

○「分かった点・分からなかった点を見直し次の学習につなげているか」という項目では全国平均・東京都平均を下回り、国語、数学、英語の正答率も都平均を下回っている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○授業内でのICT機器活用の日常化やICTを活用して学習を深めていく情報活用能力の育成に向けた指導の充実に課題がある。

○学習の振り返りを自らの学習改善に繋げていく指導の充実に課題がある。

○「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたか」という項目では全国・都平均を下回っており、一人一人に合った指導改善に課題がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○授業で一人一台端末を効果的に活用し、「ICTのよさを生かした学習活動」の充実を図る。特に、情報活用能力の育成や思考の整理、論理的思考力の育成を図る。

○授業を行う際に、「教科のつながり」や「生活へのつながり」を意識した指導を心がけ、生徒の主体的な学びを推進する。

○「板橋区授業スタンダード S」の授業の実践を拡大し、生徒が学び方や内容、時間を選ぶことで一人一人に合った指導を行う。その際、振り返りを次の学びに生かすことができるようにし、生徒の学習支援の充実を図る。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1

授業スタンダードSの取組の推進
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○自分に合った学習内容、方法、ペース、順序、誰と学ぶ等を自己選択して学ぶ場面を設定し、多様な生徒へ対応を充実させる。

視点2

ICT機器の効果的な活用

○一人一台端末の授業内での効果的な活用方法について教員間で日頃から情報共有を行い、授業内容を深める活用や思考の可視化、意見の共有などの場面での活用を増やしていく。

視点3

学ぶ意味の実感を高める

○教科の学びを生活に結び付けたり、教科のつながりを意識したり、授業で学ぶ意味を実感できるようにする。

○生徒の主体的な学びについて、校内研究を通して全教員で深める。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進

○教科の学び方(スタンダードS等)や一人一台端末の活用方法などについて、小学校と中学校で円滑な接続を行い、効果的な指導を実施する。

→全国学力・学習状況調査平均正答率を向上させる。

豊かな心と健やかな体の育成

○生涯スポーツの精神を重んじ、運動が好きになるような体育の授業を実施する。

→体育の授業が楽しいと回答する生徒の割合を増加させる。

○特別活動や道徳の授業等の学校教育全体を通して、他者の考えを尊重し合い、自分の良さに気付く場面を充実させる。

→自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合を向上させる。

多様な教育的ニーズへの対応

○スタンダードSの授業実践（それぞれの生徒に合った学び方や学習内容を選択する、学習環境を整備する等）を充実させることで多様な教育的ニーズへの対応を図る。

○生成AIによる翻訳ツールを活用することで日本語を母語としない生徒への対応を充実させる。